

# 鹿児島県のバス 2023年7月報

## ■ 病院に乗り入れるバス

発行者:バスフォーラム鹿児島 執印友之



鹿児島大学病院の車寄せは2階建 撮影: tokuchan

上甕島のバスは、島の医者が通院者ためにバスを走らせたのが始まりで、昭和40年までは「通院バス」が島のバスだったという記事が新聞に掲載されています。その後タクシー会社や建設会社を経て、公営に引き継がれて現在に至ります。

鹿児島県内で、資料からわかる「通院」が直接のきっかけとなるバス事業の開始はこの一例に限られますが、通院の需要は人々が生活していく上でどこにも存在し、それがまとまった数になると、路線バスの運行に発展していくこともあります。自家用車の保有が各世帯に1台を超えるような現代でも、通院需要は路線バスへの依存度が高いようで、さらに高齢化が進んだことで、目的地のなるべく近くまでバスで行けるように、要望に応じて、病院の敷地内まで乗り入れる事例がみられるようになりました。

南さつま市の薩南病院が最近新築移転し、バスの乗り入れにも変化があったこの機会に、病院の敷地内まで乗り入れて、乗降できる路線バスに着目してみたいと思います。

### 鹿児島市 鹿児島大学病院

74年の桜ヶ丘移転に合わせ、鹿児島交通と鹿児島市営バスが乗入開始。離島を含む県内各地から、専門の医療を求めて来院するため、他の大学病院同様に路線バスの乗り入れが大学の設計段階から想定されていたものと思われる。路線開設当初、病院のある亀ヶ丘から、桜ヶ丘方面へ通じる道路が未整備で、大学病院が行き止まりの終点となっていた。その後、85年頃から大学病院を経由して桜ヶ丘団地へ向かう系統に再編されて

いる。

鹿児島交通では、離島からの来院者を想定し、種子島・屋久島の高速船が発着する北埠頭から県庁経由の直行バスを02年に設定したことがあるほか、鴨池港・県庁を結ぶ系統も存在する。また、02年10月から日中の便について、桜ヶ丘団地内を運行していた17,18番線を大学病院に立ち寄る経路に見直した。

市営バスは、路線移譲に伴い市役所前までの乗入れ便が無くなったが、



事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	17	鹿児島駅	7	6	6
	19	鹿児島駅	3	1	1
	18	市役所前	8	4	4
	14	金生町	2	0	0
	14	桜ヶ丘東口	8	4	4
	17	桜ヶ丘五丁目	6	1	1
	34	鴨池港	1	0	0
	34	桜ヶ丘東口	1	0	0
	34	星ヶ峯	1	0	0
市営	18	脇田電停	32	24	24
	18	桜ヶ丘循環	31	23	23
		合計	100	63	63

最寄りの脇田電停から桜ヶ丘団地を循環するシャトルバスが大学病院を往復共経由することにより、1系統しかないながら、病院に立ち寄る便数は多い。

構内のバス乗り場は、一般車の車寄せと2層構造の1階部分に設置されており、高架下の空間を利用して、雨天時でも乗降の利便が確保される。また、専用の待合室も整備されている。

## 鹿児島市立病院

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	76	上之原団地	3	1	1
南国	N1	吉田インター前	1	0	0
		合計	4	1	1

15年の上荒田町移転に合わせ、鹿児島交通、南国交通が乗入開始。

市電の経路上にあたることもあり、従来から付近のバス路線は市営バス25番線1系統のみと限られていたところに、大きな需要が見込まれる施設ができることで、病院開設前から周辺のバス路

線に変化があった。

しかし、市電や自家用車での来院に比較すると、バス需要は限られていたとみられ、病院を起終点とする系統以外は道路上のバス停発着のまま変更されず、乗り入れるバスもダイヤ改正の都度減らされてきた。

構内のバス乗り場は、大型バスの乗り入れを想定した計画がなされており、天文館などと共通デザインの共同バス停が設置されているほか、自家用車やタクシーの乗降場を含めた大屋根の下にバスも発着しており、乗降の利便が確保されている。あらかじめ2か所の方面別に対応できるバス停が準備されたが、現状の運行本数では持て余している状況である。

## 厚生連病院

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
市営	27	鹿児島中央駅	5	0	0
		合計	5	0	0

18年5月の新築移転後、10月から病院敷地内に市営バス27番線が乗入開始。

それ以前から、近くの共月亭前バス停には、多くのバスが発着しており、バス停にも、厚生連病院前と併記されていた。病院のホームページには、バスが乗入れていることを表示しており、バス利用が可能な病院として積極的に周知に努めているが、肝心のバスは平日朝夕のみの運行に限定されている。





統のバスが病院前の道路上にバス停を設けていた。その後、98年頃国道3号との間にある鹿児島本線(現在の肥薩おれんじ鉄道)のガード付近が拡幅改良され、大小路側からのバスの運行が可能になった後に、市のコミュニティバス「くるくるバス」や市内縦断バス、羽島系統のバスも立ち寄るようになった。その際、折り返す必要が生じたこともあって、敷地内への乗り入れが始まったものと思われる。

バス停は病院の玄関前にあり、大屋根の下で乗降の利便が確保されている。発着の際には、病院の誘導員がバスの運行を補助する。

### 薩摩川内市

#### 済生会川内病院

現在の病院は96年に移転新築されたが、当初は敷地内には乗り入れず、東郷経由の宮之城系

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	30 31	上川内	7	7	2
	31	薩摩中央高校・宮之城	2	2	0
	30	宮之城	5	5	2
		合計	14	14	4

#### 薩摩川内市医師会立市民病院

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	41	上川内	3	3	3
	41	入来駅	3	3	3
		合計	6	6	6

病院は93年に移転新築されたが、当時はバスの乗り入れはなく、03年頃、隣接する福祉センターまで来ていたバスを構内に乗り入れたのが始まりと思われる。その後、福祉センター・隈之城循環系統が廃止になると、入来系統の全便が立ち寄るようになった。



済生会病院は敷地内のロータリーをぐるりと回ってもと来た道へ 撮影：tokuchan



バス停は、玄関のすぐ近くに設置されているものの、もともと大型車用の車寄せは準備されておらず、一般車駐車場の通路部分を最徐行でバスが走ってくる。

### 始良市 青雲会病院

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
南国	N10	蒲生・楠田	1	1	1
	-	イオンタウン始良	3	4	4
	-	バイパス・イオンタウン始良	1	0	0
	-	始良ニュータウン	5	3	3
	-	帖佐駅（小循環）	8	8	8
		合計	18	16	16

08年7月に移転新築。元々、病院前の道路は南国交通のバス路線があったことから、敷地内に乗り入れるようになったものと思われる。

他の病院と異なり、バス停は玄関前ではなく、一般車駐車場の車路部分に置かれており、バスは、一般車駐



車場の車路をぐるりと遠回りしてターンする。病院のホームページでは、路線バスでのアクセスは全く触れられていないこともあり、バス利用者側からの要望により、乗り入れが始まったのではないかと感じる。

旧吉田町が鹿児島市と合併し、吉田地域の巡回コミュニティバスが鹿児島市あいばすと一体化された際、市域を越えて隣接市の病院まで路線が延長されたが、これはたいへん珍しいケースである。

### 霧島市 国分生協病院

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	-	国分生協病院（左）	7	3	3
	-	国分生協病院（右）	7	3	3
	-	医師会医療センター（左）	4	4	0
	-	医師会医療センター（右）	5	5	0
	-	国分営業所（左）	1	1	0
		合計	24	16	6



17年11月に新築移転する際に、バスの乗り入れが始まったもの。鹿児島交通の市街地循環バスと、霧島市のコミュニティバス「ふれあいバス」が乗入れている。国分駅や霧島市役所が徒歩圏内のたいへん便利な場所であり、バス以外の選択肢も多い。

乗り場は、玄関正面に屋根付きの車寄せが整備されており、雨天時でも乗降環境が整備されている。



## 霧島市立医師会医療センター

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	68-1	鹿児島中央駅	6	4	4
	68-1	国分営業所	7	5	5
	-	国分生協病院（左）	7	3	3
	-	国分生協病院（右）	7	3	3
	-	医師会医療センター（左）	4	4	0
	-	医師会医療センター（右）	5	5	0
	-	国分営業所（左）	1	1	0
		合計	37	25	15



かつて、国立療養所霧島病院として結核診療所だった施設が、83年に一般診療に転換されたものの、バスの乗り入れがないまま、00年7月、国の国立病院再編を受け、旧隼人町による公設民営の病院としてスタートした。旧町は、同時期に町内を巡回するバスの運行を始めており、構内へのバスの乗り入れはそのタイミングだったと思われ



移転前の旧薩南病院。松林の中の閑静な場所だった。

れる。

現在、鹿児島交通の路線バスのほか、霧島市のコミュニティバスも乗り入れており、合併前の旧町境を超えて、バスが運行されている。

これらの経緯から、敷地内に大型車が乗入れる想定にはなっていなかったと思われ、通路は、特に交差部の隅切りが小さく、クランク運行は最徐行となる。

玄関車寄せにバス停があるが、屋根の下を避けて、外側に停車するのが通例である。敷地内において、次の運行までバスが時間調整をするために待機する姿が見られる。

なお、22年12月から敷地内において病院建替え工事が始まっているが、24年11月以降に使用開始が予定される新築棟についても、バス乗り場や大型バス対応のロータリーが計画公表されており、敷地のさらに奥まで乗入れるようになる見込みである。

## 南さつま市

### 県立薩南病院

旧薩南病院は、吹上浜海浜公園の近くにあり、以前から運行されていた加世田～新川海岸系統



5月に移転新築したばかりの薩南病院。  
撮影：tokuchan

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	-	加世田	11	3	3
	-	知覧	2	1	1
	-	野間池	4	2	2
	-	浦之名循環	2	0	0
	-	益山・加世田	1	0	0
		合計	20	6	6

のバスが、終点を変更して乗入れたのが最初と記憶している。現在も残る益山循環系統である。

その後、野間池系統の一部の便が病院を経由するようになり、最近では、全便が乗入れていた。ここまでが、旧病院時代。

23年5月、病院が移転新築した後も、新病院へのバスの乗入れは継続している。病院の場所が変わり、周辺のバス路線の状況も異なるが、興味深いのは、旧病院時代同様、野間池系統と益山循環系統が遠回りして立ち寄っている点。さらに、近くを走っていた高倉経由知覧系統が加わっている。知覧系統については、経路変更に伴い、廃止停留所が発生しており、かなり思い切った変更になったようだ。そのほか、コミュニティバスつわちゃんバス、浦之名循環も立ち寄る。うまくすれば、加世田の新たな交通拠点になりうる立地であるが、現状では、既存の加世田ステーション

と機能をすみ分けている。

バス停は、病院の玄関前に設けられ、大きなひさがバス乗り場のほか、自家用車乗降場、タクシー乗り場などをまとめて覆っている。ベンチも準備されている。ただし、病院の工事で設置された時刻表付きのバス停標識とは離れた位置に、鹿児島交通が別にバス停を立てて、玄関により近い場所で発着している。これは、標識位置では、停車したバスが横断歩道や身障者用駐車場を支障してしまうほか、病院敷地の出口を通り過ぎた位置にあることなどから、実際の運用に支障があるためと思われる。ベンチは両方の位置にある。

## 枕崎市

### ウェルフェア九州病院

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	-	枕崎	3	1	1
	-	東大川	3	1	1
		合計	6	2	2

96年の開院に合わせて、当時のJR九州バスが乗入れを始めたもので、路線を引き継いだ鹿児島交通が現在も運行している。

JRバス時代から変わらず、バスは病院到着後、





来た道に戻るが、白沢地区から別府地区を経由するため、白沢旧道から国道の合流点を鋭角で戻り、別府方面へ進んでいたところ、病院への乗入れで鋭角が解消されるメリットも生まれている。

開院当時からバスが乗入れたものの、バス乗り場が特に設置されているわけではなく、玄関前にバス停が置かれ、玄関ポーチのひさしを待合スペースに兼用しているほか、車寄せは救急車両とも共用となっており、便数や利用者が限定されている中での特殊な事例と感じる。

## 指宿市

### 指宿医療センター

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	-	金生町	5	5	5
	-	山川栈橋	5	5	5
	-	東大川	6	3	3
	-	なのはな館	6	3	3
	-	池田湖	3	2	2
	-	知林ヶ島入口	3	2	2
		合計	28	20	20

撮影：tokuchan



国道沿いに建つ医療センターは、小高い丘の上にある。国道にあったバス停を、玄関前に移設

して、バスが乗入れるようになった時期は定かではない。

鹿児島交通の路線バス全便と、コミュニティバス、乗り合いタクシーが発着しており、バス停には簡易な上屋とベンチが準備されている。

## 曾於市

### 曾於医師会立病院

病院が現在地にできたのは84年とされているが、バスが乗入れるようになったのは、00年以降と考えられる。旧国鉄志布志線の大隅松山駅に近く、廃止代替バスが駅跡バス停を設けており、病院最寄り停留所となっていたが、病院が丘を登ったところに位置しており、徒歩ではアクセスが困難だったことから、構内にバスが乗入れるようになったものと思われる。

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	-	岩川	1	0	0
	-	志布志駅前	2	0	0
		合計	3	0	0

現在は、曾於市のコミュニティバス「思いやりバス」も発着しているが、鉄道廃止系統の乗り入れはなく、便数はたいへん少ない。

バス停は、一般車駐車場の隅に設けられており、専用の屋根付き待合室がある。



## 鹿屋市

### 県民健康プラザ鹿屋医療センター

00年の新築移転に合わせ、バス及びタクシー用のロータリーが構内に整備され、鹿児島交通の特定便が経由するようになった。(当初、診療時





事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
鹿交	-	岩川	1	0	0
	-	高隈	1	0	0
	-	郡境	1	0	0
	-	都城	5	3	3
	-	鹿屋市役所・鹿屋	2	0	0
	-	鹿屋女子高	1	1	1
	-	鹿屋	5	3	3
		合計	16	7	7

間内でも乗入れないで通過する便があった。現在は全便乗入れ。）

路線バスのほか、鹿屋市のコミュニティバス「くろりんバス」の発着がある。運賃体系の違いからか、コミュニティバスの方が利用者が多いようだ。

乗り場は、病院玄関から屋根付きの渡り廊下でつながっており、タクシー、バス、自家用車駐車場の順で歩行距離が長くなる。

病院は、市中心部から、東九州自動車道の鹿屋串良インターに至る国道269号沿いにあり、空港特急バスも国道を走っているが、病院への乗り入れはない。

## 南種子町 公立種子島病院

病院前の国道を走っていた旧種子島交通が、04年の病院移転新築に合わせて敷地内を經由するルートに改め、玄関前にバス停を設けたもの。玄関前の車寄せは屋根付きで、簡易ながら、待合の環境は整っている。

種子島交通撤退後、現在は、さんまりん観光の

事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜 祝日
さんま りん	-	南種子町役場	6	0	0
	-	種子島高校前	6	0	0
		合計	12	0	0





西之表～南種子間を結ぶ幹線系統の路線バスが全便乗入れている。なお、空港連絡バスの乗り入れは時刻表上では確認できない。

**知名町  
沖永良部徳洲会病院**



事業者	系統番号	行先	平日	土曜	日曜祝日
沖バ	①	国頭	2	2	2
	①	知名	2	2	2
	②	空港	7	7	7
	②	知名	7	7	7
	③	永嶺・和泊	4	4	4
	③	知名	4	4	4
	④	後蘭・和泊	2	2	2
	④	知名	2	2	2
	⑤	ガジマル・和泊	4	4	4
⑤	知名	4	4	4	
		合計	38	38	38

17年12月の病院新築に合わせ、知名営業所発着のバス全便が乗入れるようになったもので、この時点で、町内のバスのルートも見直されたようだ。バス停は、病院の玄関前に置かれているが、運用されるバスが基本的にマイクロバスであるためか、自家用車駐車場の角の区画に駐車されると、バスの周回ルート運行が困難になるほか、病院への出入りの道路幅も狭く、運行に時間を要する場合もある。

**■最近のバス関連の話題から  
鹿児島交通鹿屋～鹿児島空港線増便**

4月1日から、東九州道経由が5往復体制に増便。百引・牧之原経由は1往復のまま存置。コロ

ナ前より、東九州道経由については1往復の増となった。コロナ前は12往復体制だったことから、半数の便が戻ってきたことになる。

**南国交通4月1日鹿児島市内路線ダイヤ改正**

◇吉野公園線について◇

N3吉野公園線は系統を廃止し、経路を変更しN36-4となります。

鹿児島中央駅の乗り場は『東13番のりば』へ変更となりますのでご利用の際はご注意ください。

※布ヶ谷経由吉野ゴルフ場行(N4)は従来通り『東3番のりば』です。

◇吉野支所前バス停新設について◇

上之原(N36)・吉野公園(N36-4)始発の便について吉野支所前にバスを新設しました。

※あおぞら吉野保育園様向かい、“ら一めん吉美様”駐車場前  
※吉野支所前始発便については、従来通り転回場内から発車いたします。

**4月1日から「たまたま箱温泉」へ乗り入れ！  
ダイヤ改正・停留所名称変更のお知らせ**

いつも鹿児島交通をご利用いただきありがとうございます。来る4月1日より、ダイヤ改正・停留所名称変更を行います。引き続きご利用ください。

実施日 2023年4月1日(土)

- 「山川・指宿～鹿児島空港」線  
運行回数・時刻の変更
- 「知林ヶ島～指宿駅～長崎鼻～池田湖」線  
「たまたま箱温泉」へ乗り入れ。運行時刻の変更。
- 「開聞駅～長崎鼻～山川高校～活お海道」線(平日のみ運行)  
活お海道ゆき(朝便)の運行時刻を5分早めます。
- 停留所名称の変更

現行	変更後	現行	変更後
エコキャンプ場	知林ヶ島入口	山川砂むし温泉前	山川砂むし温泉入口
湯山	白水館入口	神社前	杖間神社前
湯口	シーサイドホテル入口	大川宮前	釜蓋神社前
五人番	フェニックスホテル前	イッシーバス	指宿高校前
南中前	南指宿中前	北十町	北十町

お問い合わせは  
鹿児島交通 指宿営業所 0993-22-2211

九州のバス時刻表

## 鹿児島空港連絡バスで JCB/American Express/Diners Club/Discoverのタッチ決済を4月27 日より取り扱い開始

南国交通が運行する鹿児島空港連絡バスへ導入しているタッチ決済に関し、4月27日より、JCB/American Express/Diners Club/Discoverの取り扱いを開始いたします。

今回の取扱拡大に伴い、鹿児島空港から、鹿児島市内、薩摩川内市、出水市や熊本県の水俣までの乗車がより便利に簡単にご利用いただけるようになります。

### 1 実施概要

南国交通では、鹿児島空港連絡バスにおいて、22年4月よりVisaのタッチ決済を取扱っており、今回新たにJCB/American Express/Diners Club/Discoverのタッチ決済が利用可能となります。

### 2 サービス開始日

23年4月27日(木)

※Visa:22年4月20日(水)より実施中

### 3 利用可能な路線

鹿児島空港 — 鹿児島市内

鹿児島空港 — 川内

鹿児島空港 — 宮之城・出水・阿久根

鹿児島空港 — 栗野・大口・水俣

### 4 利用方法

鹿児島空港連絡バスの乗降車時それぞれ、車内に設置された専用機器にタッチ決済対応カードやスマートフォン等をかざしていただくことでバスをご利用いただけます。

【ワンタッチ決済】対象路線:鹿児島空港～鹿児島市内

※乗車時、タッチ決済専用機器にカードを触れて下さい。(乗車時に運賃の精算を行います)

## 鹿児島空港連絡バス4月28日から増便

鹿児島交通と南国交通で各2往復増便し、58

往復体制に。コロナ前の76便体制には届かないものの、時間帯によっては10分間隔での運行が復活した。鴨池港発着、高速船ターミナル発、伊敷経由、吉野経由空港行きは運休が継続している。

## バス減便で登下校に支障が…やむを得ず生徒のミニバイク通学解禁 標高120メートルに立つ鹿児島商業高

(23年5月3日 南日本新聞)

鹿児島商業高校(鹿児島市西坂元町)は8日から、生徒のミニバイク通学を許可する。市内の公立高では明桜館に次いで2校目。通学に利用するバスの減便で、登下校や部活動に支障が出ていることから解禁に踏み切った。学校関係者は「背に腹は代えられない」と話す。

2日あったPTA総会で、堀之内尚郎校長(59)が保護者へ経緯を説明。「自動車学校での講習を実施するなど、安全対策に取り組んでいく」と理解を求めた。

同校によると、バスで通学する生徒は、JRや市電と乗り継いで利用するケースも含めると毎年200人前後おり、全校生徒の4割を占める。

近くの「商業高校入口」に止まるバスは市交通局と、南国交通の2社だ。4月1日のダイヤ改正で、それぞれ14、18便減らした。市バスの方は1日53便から7割程度になった計算だ。市交通局は「利用状況に応じて効率的な運行を図っている」、南国交通は「乗務員の不足から、いったん減便せざるを得なかった」と説明する。

同校によると、この数年続くバスの減便や路線変更の影響は大きく、登校時に乗り切れずに取り残される生徒もいる。生徒や保護者からは「部活動の朝練習に参加できない」「帰宅する時間帯に乗り継ぐ便がない」といった苦情や相談が寄せられた。

スクールバスの導入や部活動に使っているバスの活用も検討したが、いずれも予算面や運転手の確保が難しいことから断念。4月の校則改定に合わせ「単車免許の取得・単車通学について」



の規定を新たに盛り込んだ。

県教育委員会によると、県内の公立高68校のうちバイク通学生がいるのは50校。県全体の指針はなく、許可基準は学校ごとに異なる。同校は基準を「乗り継ぎが必要」「通学距離・時間が長い」などとしたが、厳密な数値はない。標高120メートルの高台にあるため、高低差が大きいコースを通う生徒に配慮した。免許は原動機付自転車に限り、50cc以下の単車のみとなる。

堀之内校長は「生徒の足を確保するためには、やむを得ない決断だった」。城下盛一郎PTA会長(46)は「事故は心配だが、学校と保護者が連携して安全運転を徹底させたい」と語った。

## 鹿児島交通6月から妙見路線バスを国分駅前乗入

鹿児島交通が運行する妙見路線バスが6月1日から路線を延長し、一部の便が塩浸発電所に立ち寄り、牧園・丸尾方面へのバスと接続を行うほか、隼人駅前からソニー国分前経由で国分駅前まで延長。立花上折り返し便は無くなった。

## 鹿児島市営バス 10月から全区間一律230円 交通局、6月議会に値上げ提案へ

(23年6月6日 南日本新聞)

鹿児島市交通局は、市営バスの大人料金を全区間一律230円(小児120円)とする条例改正案を市議会6月定例会に提案する。定期券も含めて乗客の約3分の2が190円区間の利用者で実質の値上げとなる。これまでの料金は120円～520円だった。可決すれば改定は10月1日からとなる。

定期券はこれまでの230円区間と同じ料金となり、通勤で大人1カ月9,660円、通学で同6,900円。定期券限定の新たなサービスとして、市電も含めて市バスの全区間、路線で乗り降り自由となる。

市は料金改定により年間約1億2千万円の収入増を見込む。経営改善を目的に20、21年に計20路線を民間に移譲したが、21年度は市バスのみ

で約3億3千万円の赤字だった。コロナ前の19年度で約1億4900万円の黒字だった市電と合わせて、26年度以降の収支の均衡を目指している。

均一料金にすると、来年1月から開始予定のクレジットカードで料金を払うタッチ決済の導入費を抑えられる。整理券などの車載器も減らすことができ、経費削減にもつながるといふ。

市バスが運行するのは22路線。そのうち、約4割の一部区間で民間バスと競合している。ある民間バス業者は、「燃料高などにより経営は厳しい。市の料金改定により民間も値上げしやすくなる面はある」と話した。

## 鹿児島交通バス12系統で「維持困難」 コロナで経営悪化、運転手不足 沿線自治体に支援求める

(23年6月10日 南日本新聞)

鹿児島交通(鹿児島市)は9日、自治体をまたぐ地域間幹線のバス27系統のうち、12系統の維持が困難になったとして、沿線の10市3町に、代替策の検討を求めていると明らかにした。新型コロナウイルスの長期化による経営悪化や慢性的な運転手不足が理由。県庁であった県バス対策協議会で報告した。

西村将男副社長は取材に「利用者がコロナ前に戻らず、運転手の離職が続き、募集しても確保できない。自治体の支援をお願いしたい」と話した。

鹿児島交通は代替策に(1)沿線自治体が同社や別の事業者へ運行を委託し、減便やルート変更で対応(2)沿線自治体がコミュニティーバスなどを走らせて路線を確保一を挙げ、4月に10市3町に伝えた。

12系統のうち、「鹿屋一大根占ー根占港ー根占」は、鹿屋市、錦江町、南大隅町が運行を委託する方向で調整が進んでいる。残る11系統は対応を検討中で、同社と協議して決める。

同社は昨年の対策協議会で、50あった地域間幹線バス系統のうち、23系統の運行見直しを明らかにした。このうち18系統は自治体が運行を委託

し、5系統はコミュニティーバスの導入などで対応した。事務局の県交通政策課によると、いずれも地域の交通手段自体は確保されている。

この日の協議会で同課は全27系統で国庫補助を受けた場合でも約1億7400万円の赤字が見込まれると説明した。新型コロナの影響に伴う特例措置で22年度までの3年間は1日当たり輸送量などの補助要件が緩和されたが、23年度以降の方針は示されていないという。

#### 運行見直し対象

加世田～加世田高校～知覧  
知覧～枕崎  
鹿児島～川辺高校～枕崎  
枕崎～今岳  
枕崎清原循環  
加世田～枕崎  
伊集院高校～加世田  
鹿児島中央駅～日当山～重久車庫  
鹿児島駅～島平～川内営業所  
鹿屋～高山～内之浦  
鹿屋～吾平～高山  
鹿屋～根占港～根占

### 鹿児島交通6月末で穎娃～只角間廃止

鹿児島交通の知覧→穎娃ゆきが5月末をもって無くなったのに続き、片道だけ残っていた穎娃→種子尾ゆきも6月末で廃止となり、只角～穎娃

間は完全廃止となります。

### 南国交通スクールバスのDRACHEN塗装車を更新

南国交通が鹿児島実業高校のスクールバス専用車としている車両が置き換えとなり、新たなDRACHEN塗装車両がデビューしました。

(撮影:五月優)



### 鹿児島交通・南国交通乗務員募集をラッピングでアピール

深刻な乗務員不足でダイヤや路線の維持が困難になっている状況で、車体ラッピングを行った車両がデビューしました。両社とも、ラッピングには鹿児島県バス協会の名前が入っていることから、国などから補助が出ているものと思われます。







## ラッピングバス増加中

長期間に渡るコロナ禍で乗客の減少が著しく、結果的に収益が非常に厳しいといわれる中、各社ラッピングによるバス広告を積極的に展開しているようです。これまで見られなかった中型バスにもラッピングが広がっています。







## ■最近の新規登録・移籍車 など



鹿児島200あ・595南国交通



鹿児島200か・2436/アーベル交通



鹿児島200あ・601/南国交通観光



鹿児島200か・2438/川内観光交通



鹿児島200か・2434/南国交通観光



鹿児島200か・2447/南九州観光バス





鹿児島200か2454/高山観光バス



鹿児島200か2456/高山観光バス



鹿児島200か2457/南州交通



奄美200あ・53/徳之島総合陸運



奄美200あ・55/瀬戸内海浜バス



奄美200あ・56/南陸運 C



奄美200あ・58/しまバス



奄美200か・146/南陸運 C



奄美200か・148/しまバス

C 撮影: CONEX

【参考文献等】

各病院ホームページ

各自治体ホームページ

南日本新聞ホームページ

南海日日新聞ホームページ



